

資料3-1
(佐賀県資料)



自発の地域づくりの取組について
～自発と誇りが地域を変える～

佐賀県まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成27年9月策定）

戦略の4つの柱

ひとづくり・ものづくり佐賀

～安定した雇用を創出する～

新規雇用創出数

5,000人（5年間累計）

本物を磨き、ひとが集う佐賀

～本県への新しいひとの流れをつくる～

人口の社会減（転出超過）の縮小

H26: ▲2,269人 ⇒ H31: ▲1,500人

宿泊観光客数

1,500万人泊（5年間累計）

子育てし大県佐賀

～若い世代の結婚・出産・子育ての
希望をかなえる～

合計特殊出生率

H26: 1.63 ⇒ H31: 1.77

自発の地域づくり佐賀

～時代と向き合う地域をつくる～

**自発の地域づくりの取組を県と市町
との連携等により支援した地域数**

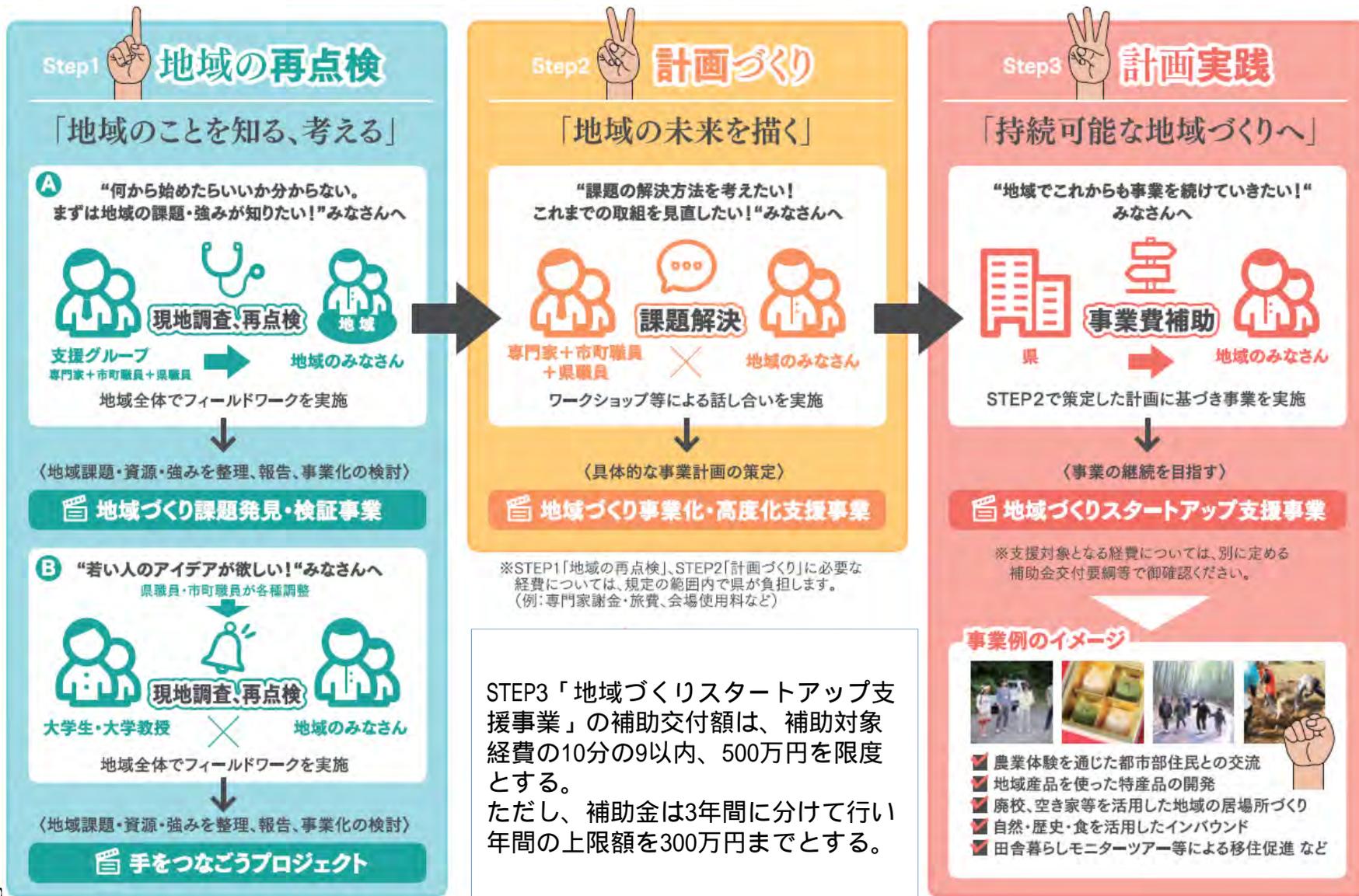
60地域（5年間累計）



1. 自発の地域創生プロジェクトについて

1-1.自発の芽を育てる～自発の地域創生プロジェクト～

地域の自発の取組の「背中を押す」観点から、専門家＋市町職員＋県職員がチームとなって地域に入り、地域の様々な実態・実情に応じた支援を実施



事業名『「竹崎コハダ」プロジェクト～コハダを食うなら銀座か佐賀～』（太良町竹崎地区）
事業主体：こはだ女子会・投網業者会など

事業目的

■太良町竹崎地区では水揚げされたコハダを東京築地市場へ向けて出荷しているが、町内での流通や飲食店での提供はあまりなされていない。そこで、町内でのコハダの消費拡大に向けて、竹崎地区の投網（コハダ）漁師やその妻、町内の住民や商工業・観光業関係者がコハダの活用方法を模索し、地域に人を呼び込む仕組みをつくることを目的としている。

【こはだワークショップ】平成28年度



コハダの美味しい食べ方や地元で買って食べてもらう仕組みについて多数のアイデアが出された

【こはだ女子会によるコハダ料理の試作調理・試食会の実施】平成29年度



▲専門家と試作したコハダ天ぷら丼
 【レシピ】白ご飯にコハダ・芝海老・海苔の天ぷらを盛り、アスパラガスを添え、特製甘だれを絡める



▲竹崎公民館でモニター60名が試食



【今後の予定】

- 女子会の夢である「コハダの加工品や料理メニューの開発」「食堂orカフェの開店」の実現に向けて引き続き活動する
- 町内の旅館・飲食店でコハダを食べることができる環境をつくる



▲こはだ女子会のみなさん



手をつなごうプロジェクト（平成27年度・28年度）

事業名『基山町元気プロジェクト』（基山町×慶應義塾大学）

事業主体： 
Senior Makes Great Kiyama

概要

■基山町では、子育て世代から高齢者層が住み良いまちづくりを目指している。そこで、慶應義塾大学飯盛教授と研究室の学生と連携し、定年退職後の経験豊かなシニア層がコミュニティ・カフェを運営し、子育て世代の母親たちを中心に地域住民の憩いの場とする仕組みについて検討した。

【フィールドワーク】

飯盛教授、学生20名が参加



【学生によるカフェの提案】



【学生による昔あそびワークショップ・ニーズ調査の実施】



子どもたちが遊ぶ様子



カフェスペース

成果

○コミュニティ・カフェ「きやの里」の運営を開始



学生作成のロゴ



- ・平日10時～16時に営業（土日祝日は休み）
- ・休日、不定期にイベントを開催
- ・野菜などの地場製品の販売
- ・こだわりのドリップコーヒーの提供

○子どもからお年寄りまで楽しめるイベントを開催



竹トンボづくり教室



お絵かき教室

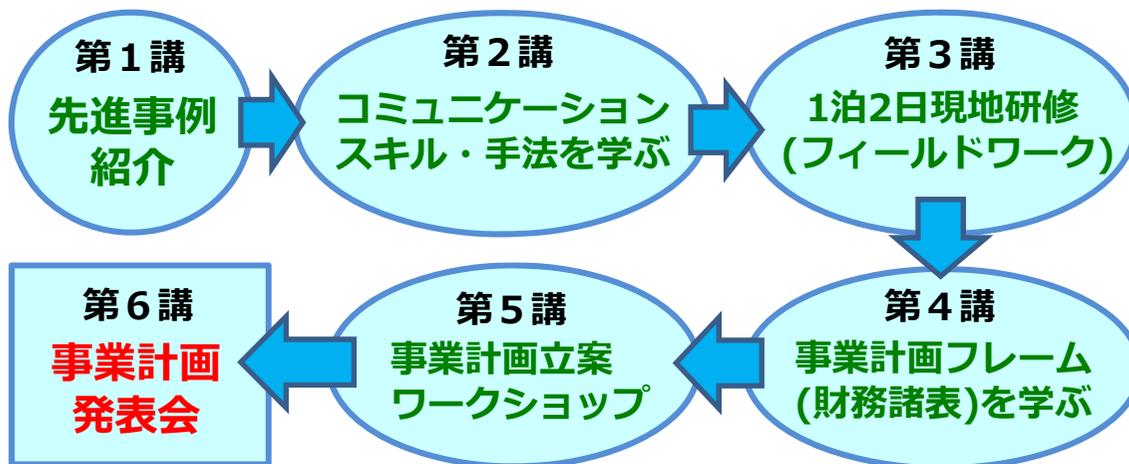
- 地域ツズサポーターや子育て支援団体と連携
- お年寄りが子どもたちに昔の遊び方を教える機会を創出
- 世代間交流を実現
- 寺子屋、健康教室の開催

1-2. 自発の芽を育てる ～地域づくり人材育成塾～

リージョンサガ
Région SAGA
地域づくり人材育成塾



- 平成30年度 7月から募集開始（予定）
- 意欲はあるが、知識やノウハウがなく活動に結びつけられていない方を対象に、基本的な視点や手法を学んでもらう。（全6講）
- 第1期生（平成28年度） 25名
第2期生（平成29年度） 24名
（地域づくり団体関係者、会社員、大学生、市町職員など）



<卒業生の受講後の動き(代表的なもの)>

- ・地域密着型の法人設立、一次製品のリブランディング化
- ・買い物もできる地域の図書館を30年度にオープン予定

1-3. 自発の芽を育てる ～佐賀づくり志士会談（仮称）～

20代から40代の若い世代に、既に地域づくり活動に積極的に取り組んでいる同性代との交流会やお試し地域づくり活動に参加してもらうことで、積極的に活動する新たな人材を発掘。

佐賀づくり志士会談（仮称）



（地域づくり企画プレゼン）



共感！

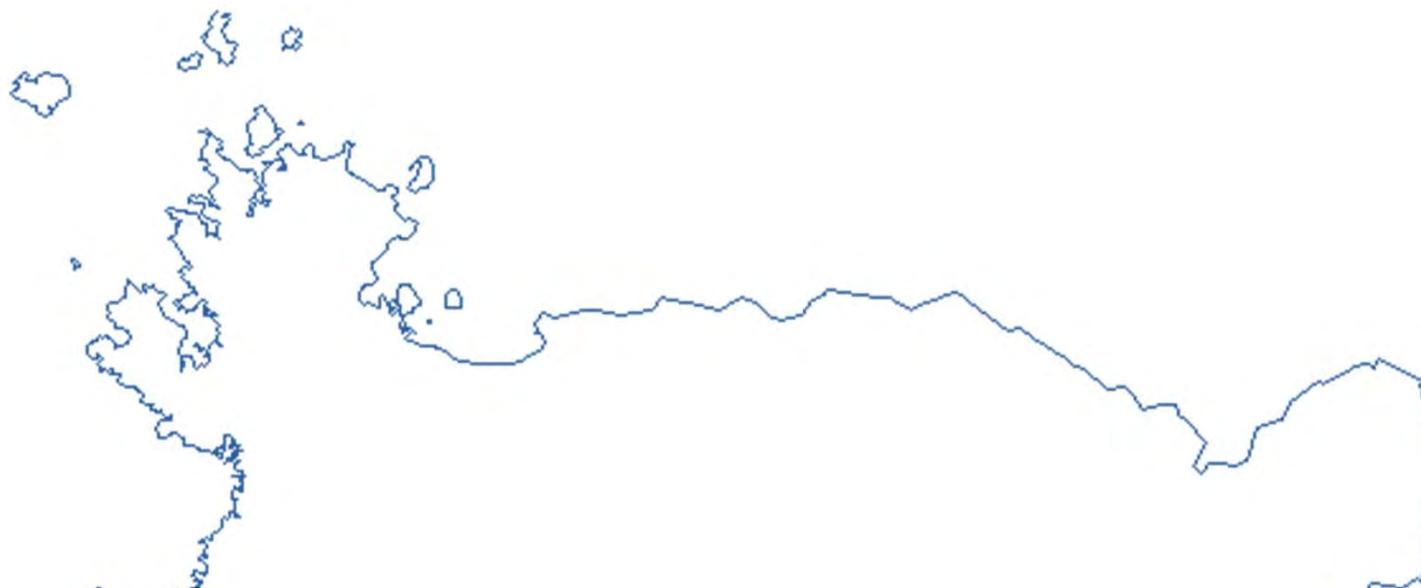
（交流会）

お試し地域づくり活動

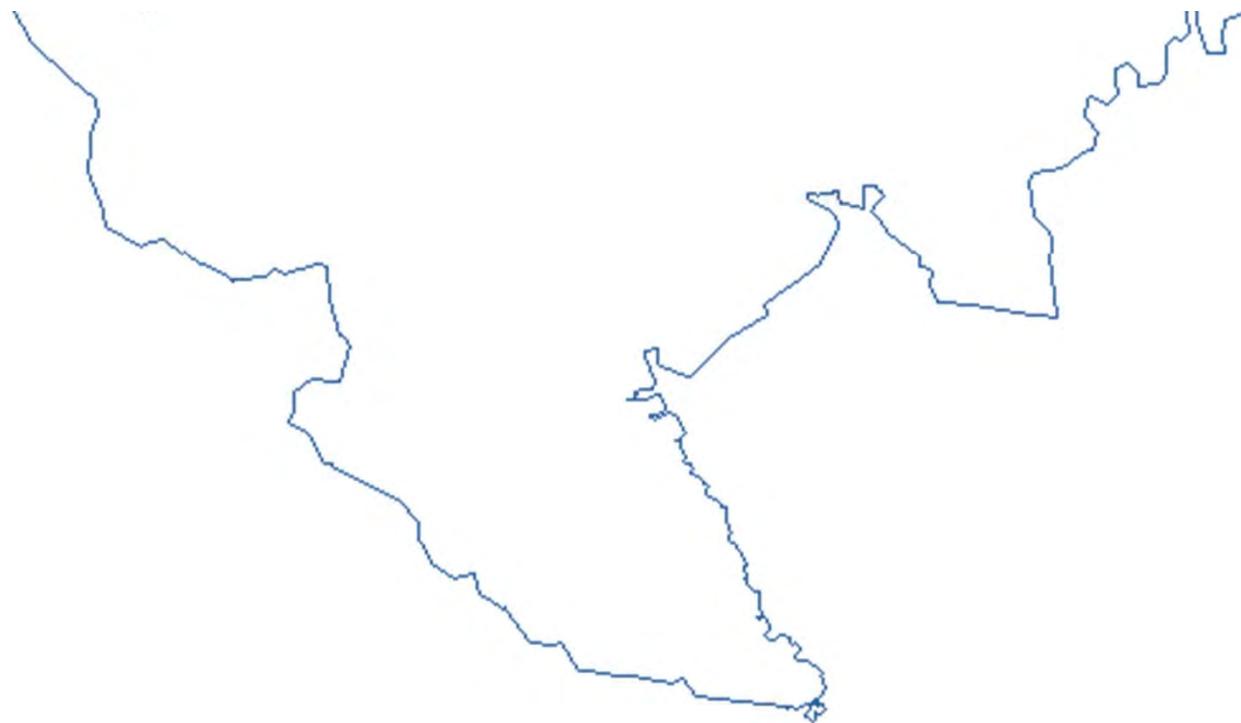


若い世代による新しい動きを！





2. 中山間地・離島・県境振興対策本部について



2-1. 対策本部のミッション

対策本部のミッション

中山間地・離島・県境地域の振興について、**地域の現場の課題を吸い上げ、解決につなげる**

課題把握・対応

集落訪問にて現場が抱える課題を把握

課題への対応・支援
(必要な事業の検討)

成功事例創出

地域のいいところを伸ばすための支援

イメージ

集落が抱える課題

Step1

現行の施策

Step2

新規施策

- ☑ 集落訪問を実施
- ☑ 集落が抱える課題を明らかにする
- ☑ 現行の施策を精査
⇒ 制度の改正を検討
⇒ 必要な新規施策の検討

2-2. 対策本部の体制

対策本部

本部の方針決定

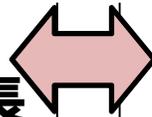
○メンバー

本部長：副知事

副本部長：地域交流部長

構成員：教育長、全部長、局長

情報共有



協議会

県－市町間の意識共有・協議

○メンバー

参画する市町は「手挙げ」

県

市町

さが創生推進課長 企画担当部長or課長



方針案を協議



方針決定を受けて対策を検討

タスクチーム（統括：さが創生推進課）

集落調査の後、多くの集落が抱える課題に対し、**課題ごと**に関係課（統括課）長をトップとする「**ワーキンググループ**」を設置

ワーキンググループの構成員（関係課員＋市町職員）は、地域交流部長が決定

WG 1

統括課：○○課／構成員：○○課員、△△課員／□□市職員

WG 2

統括課：○○課／構成員：○○課員、△△課員／□□市職員

2-3. 対策本部の取組

現場を大切に。県職員が集落に出向き、住民と意見交換

目的 1 地域の現場の課題を吸い上げ
解決につなげる

目的 2 地域資源を活用した住民の
自発的な取組を支援する

地域資源を見て歩き



地域活動に参加し



地域の声(資源、課題)
は直接、幹部会議に報
告、対応を議論



住民と意見交換



現場で起きているこ
とを直接把握し、施
策に反映

2-4. 集落訪問

訪問チーム



市町職員



県公募職員

入庁10年目以下の職員を公募



県さが創生推進課職員

週に1回程度 担当集落を訪問

行政的な調査ではなく、地域住民に寄り添って「ホンネ」を聴く



住民との意見交換



椿の収穫に参加



お習字サロンで聞き取り



地域の集会に参加

2-5. プラス5分プロジェクト

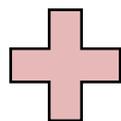
目的 地域の現状とズレがある制度・ルールの見直しを進めていきたい

対象 県の現地機関職員

地域の方と話す際に



担当業務の
中で聴かれた声



担当業務外の声が聴かれた場合

「+5分」の意識を持ってじっくり
聞いていただけないか

ポイント

どうせできない・・・

ルールがあるから・・・

Step 1

現地機関訪問

担当レベルの職員が現地機関
を訪問し、若手職員と座談会形式
でざくばらんに意見交換



本部会議での議論



なんとかできるのでは・・・

ルールを変えれば・・・

Step 2

定期的に声を集約する

気軽に回答できるアンケート
システムを利用

取組例①／離島留学の実現

唐津市 加唐島、馬渡島、小川島

小中学校の生徒が減少
島から子どもの声を絶やしたくない
豊かな自然の中で、豊かな学びと体験を！



島留学を実現（平成29年4月～）

	H29	H30
加唐島	3人	3人
馬渡島	2人	1人
小川島		1人

取組例②／災害時の避難（みやき町）

みやき町土井外・坂口地区

災害時に近くの久留米市に避難できるようにしてほしい・・・



今後の進め方

域外避難受入の基本ルールを決め、避難所運営マニュアルに記載することにより、互いの住民に認識してもらう方向でみやき町・福岡県・久留米市と検討を進めていく。

取組例③／それぞれの中山間チャレンジ事業

目的

中山間地域のそれぞれの集落や産地が主体的に行う課題の抽出や解決策の検討、及び目標の実現に向けた取組に対して、関係機関が一体となって支援することにより、農業・農地の維持や農業所得の向上を図る。

事業内容

<現状>

- ・ 農地の受け手不足
- ・ 耕作放棄地の増加
- ・ 有害鳥獣被害の発生



このままでは集落の将来が…皆でなんとかしないと…

それぞれの中山間チャレンジ事業

<集落・産地での話し合い>

根本的な課題は？
担い手の確保をどうする？
農地整備をどうする？



新品目の導入、農作業
受託組織の設立などの
取組を実践

<県・市町・JA等の取組>

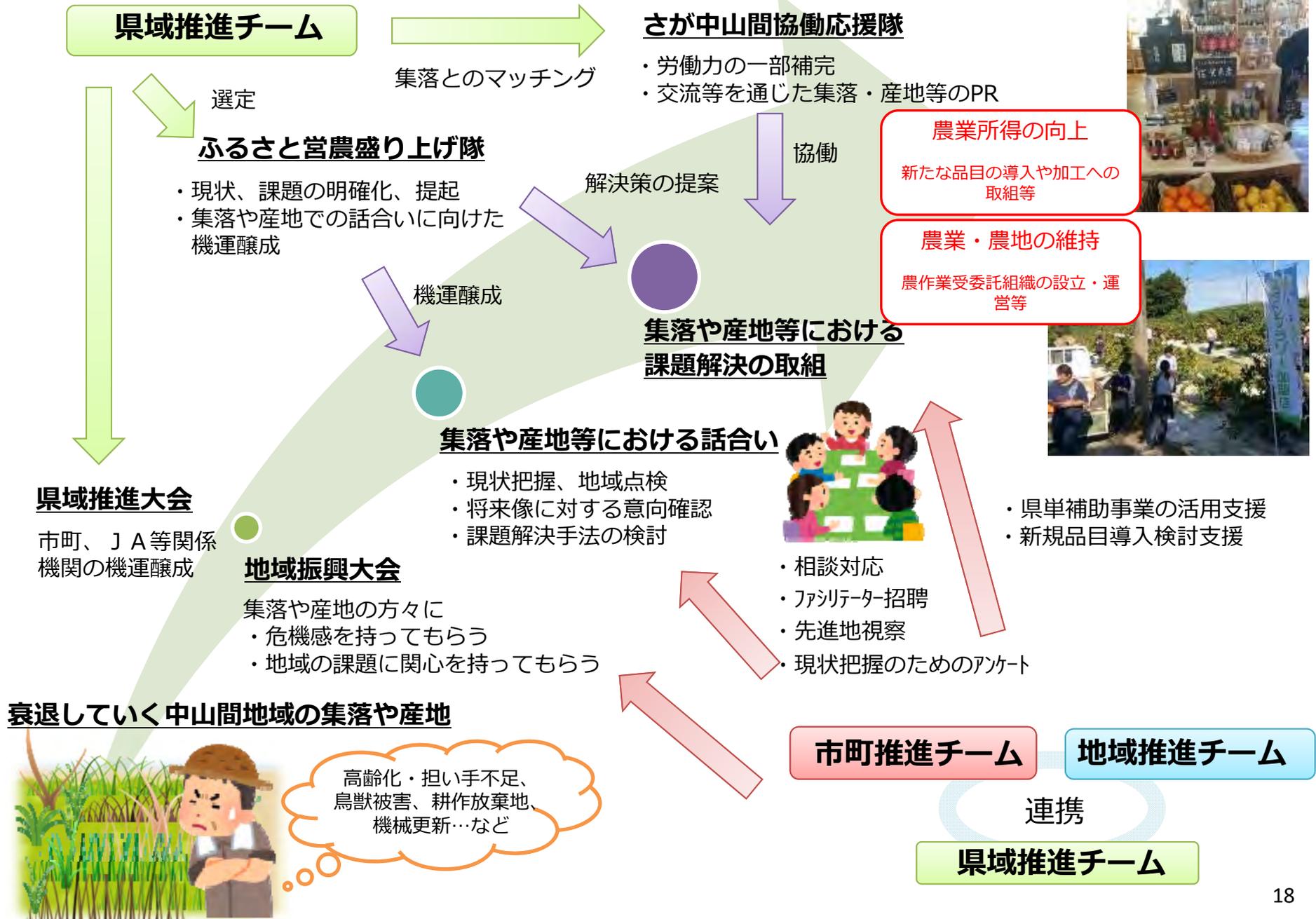
★合意形成や目標実現に
向けた支援



中山間地域の
維持・発展

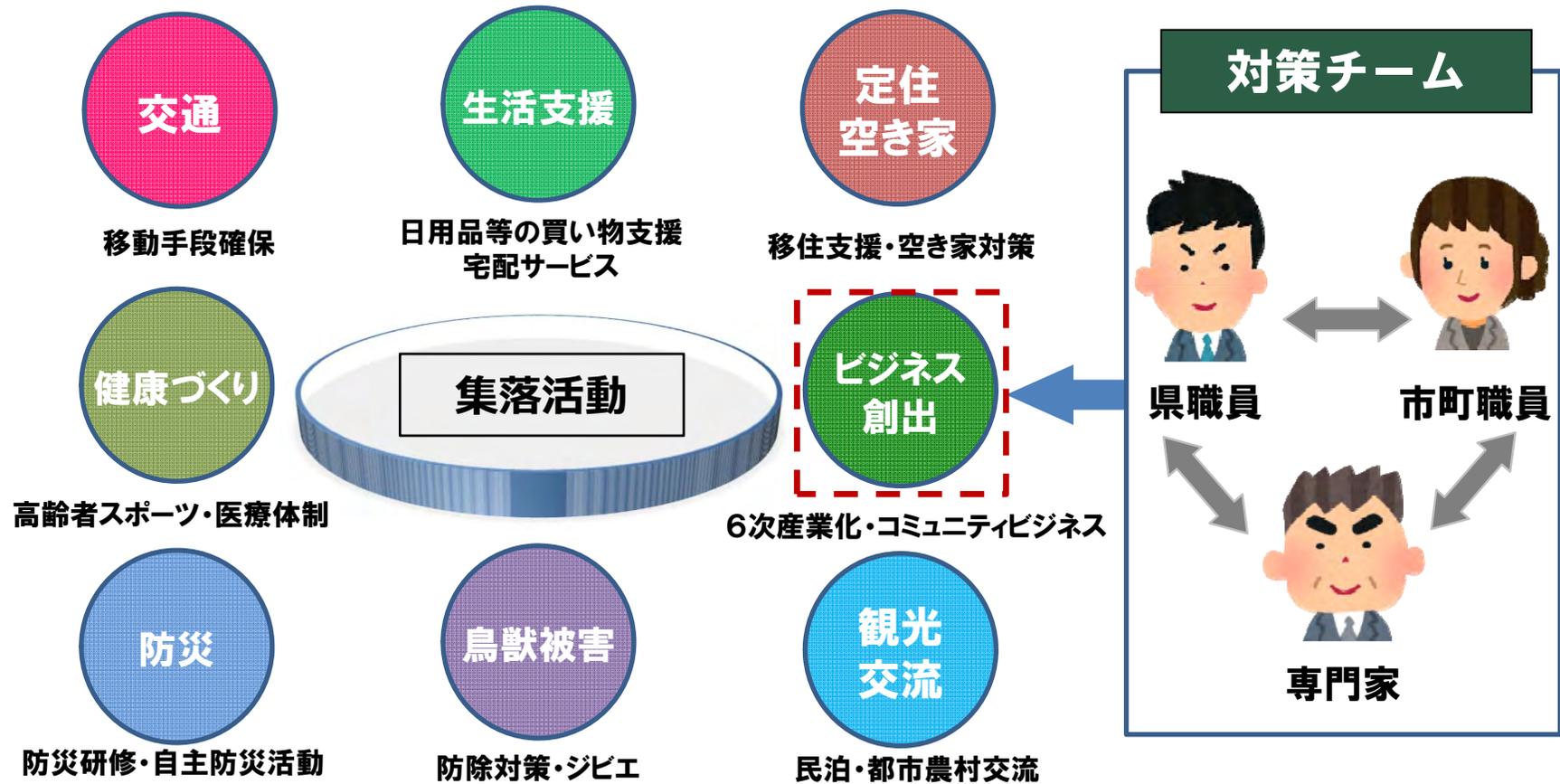


中山間地域農業・農村振興に向けたロードマップ



2-6. 今後の展開

対策チームを設置し地区のいいところ（特定分野）を集中的に支援



成功事例を創出するために必要な事業の検討

地域とともに取り組む 暮らしの移動手段確保推進事業

- ・地域の移動手段の確保
- ・成功事例の創出



取組を強化



地域とともに取り組む暮らしの移動手段確保推進事業

市町とタッグを組み、現場に入って議論

本当に必要とされる移動手段の確保・改善に向け、プロセスを重視した取組を展開

(想定するアプローチ)

- ①市町職員とともに移動制約者等を訪問し、現場のニーズを把握。
- ②移動制約者等のどのような移動の問題をどのような方法で解決するか議論。
- ③住民や関係者との話し合いを重ね、改善案を検討。
- ④改善案の合意、実施に向けた準備・周知。



地域創発による地域公共交通モデル事業

市町等の自発の取組を補助事業等で支援

(事例)：幹線バス路線廃止予定を受けた代替交通手段の確保（武雄市）

- 伊万里武雄線が平成30年3月末に廃止されることを受け、1週間の乗降調査を実施し、定期利用者を把握
- 乗降調査の結果を踏まえ、武雄市、伊万里市、交通事業者、運輸支局と代替交通手段の検討を定期的に重ねるとともに、住民と協議。
⇒武雄市は乗合タクシー「武雄桃川線」、伊万里市はデマンド型タクシーによる代替交通とし、平成30年4月運行開始。

自発と誇りが 地域を変える



ご清聴ありがとうございました。